

平成29年度 施策評価シート

基本目標	V	区民と区が協働で「すみだ」をつくる
政策	520	生涯学習・スポーツ活動の輪が広がるまちをつくる
施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる
施策の目標	区民が、趣味や教養、文化活動など、さまざまな生涯学習活動に主体的に取り組み、生きがいのある生活を送っています。また、区民の間に生涯学習の輪が広がり、自身が習得した学習成果を地域活動に活かしています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「さまざまな学習活動に取り組んでいる」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					40.0%					42.0%
実績	38.1%									
指標名	「身近な場所で学習活動ができる」と思う区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
目標					53.5%					60.0%
実績	52.0%									

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
区立図書館については、生涯学習の拠点として区民や地域の課題解決を支援し、地域の交流の場としても機能することが求められている。また、子ども読書活動についても推進していく必要がある。	H28	683,389
	H29	
	H30	

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
C	一定の成果は出ているが、より効果的に進める必要はある。

4 今後の施策の運営方針

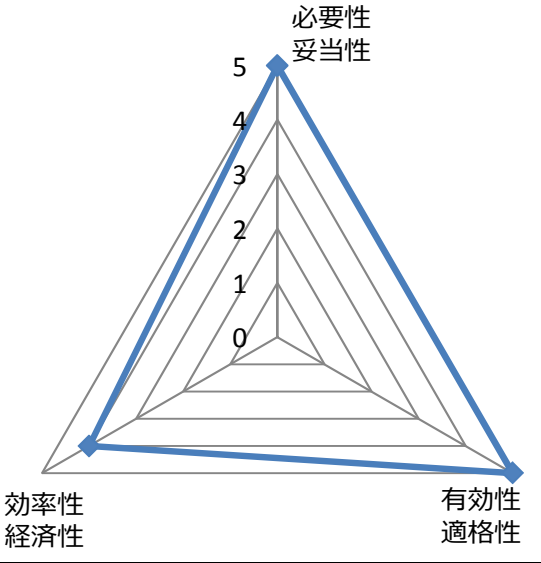
評価	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
○	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
基本的な事業を整備されてきているが、より効果的で効率的な事業運営を図っていく必要があるため。	
【今後の具体的な方針】	
図書館事業については、利用者ニーズに沿って幅広く受け入れられるような事業内容としていき、あわせて効率的な事業運営に取り組んでいく。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標		直近の評価内容
				年度目標値	推移	評価結果
				年度実績値		評価対象年度
1	図書館管理運営費	261,674	安全かつ適正な施設管理を行うことにより、来館者が快適かつ利用しやすい環境をつくる。	934,000	↗	改善・見直し
				934,281		平成28年度
2	図書館事業費	262,919	有識者や教育関係者の専門的な知見の活用や区民の意見を取り入れながら、図書館サービスの向上を図るとともに、各種イベント等を実施していくことにより、区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる。	934,000	↗	現状維持
				934,281		平成28年度
3	資料購入費	59,161	本事業を実施し、図書館資料を充実させ、広く区民の利用に供し、その教養・文化の発展に資することにより、区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる。	934,000	↗	現状維持
				934,281		平成28年度
4	視聴覚資料	3,555	視聴覚資料の収集・保存を行い、広く区民の利用に供することにより、その教養と文化の発展に資する。	934,000	↗	現状維持
				934,281		平成28年度
5	障害者サービス事業	2,316	障害者に応じたサービスを提供することで、希望する図書を読むことができ、生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる。	180	↗	改善・見直し
				182		平成28年度
6	児童サービス事業	487	児童が自主的・習慣的に読書に親しむ機会と環境を整備し、豊かな心と志を持って生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる。	7,100	↗	現状維持
				7,145		平成28年度
7	図書館と学校図書館の連携事業	16,817	学校図書館の環境整備や支援を通して読書活動の推進を図ることにより、児童・生徒が情報リテラシー能力を身に付け、さまざまな学習活動に主体的に取り組んでいける環境をつくる。	34	↗	改善・見直し
				35.6		平成28年度
8	子ども読書活動推進事業費	2,735	子どもの読書活動を推進することで、生涯にわたり学ぶことができる力を育むことを目指す。また、子どもの読書活動の推進は、家庭・地域・学校など関係機関との連携・協力のもと総合的・体系的に実現されるものであり、地域全体の生涯学習環境の醸成に資する。	18	↗	現状維持
				18		平成28年度
9	ブックスタート事業	1,406	本事業から、おはなし会などの図書館行事への参加を促し、読書習慣の定着に繋げる。	11,700	↗	改善・見直し
				11,743		平成28年度
10	図書館オンライン事業	72,183	図書館の効率的な運営、利用者の利便性を高める役割を担うことで、区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる。	420,000	↗	改善・見直し
				426,957		平成28年度
11	IT講習サポート事業	136	区民のIT技術の普及・向上を図ることにより、生涯学習の環境づくりに資する。	2,000	↘	廃止
				1,136		平成28年度

平成29年度 事務事業評価シート

施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	図書館管理運営費					1		
事業概要	図書館施設の維持管理 ※28年度は3館（緑・立花・八広）の大規模改修工事を実施 根拠法令：墨田区立図書館条例等					主管課・係（担当）		
						ひきふね図書館		
						03-5655-2350		
施策への 関連性	安全かつ適正な施設管理を行うことにより、来館者が快適かつ利用しやすい環境をつくる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	第24回墨田区住民意識調査における「生涯学習の充実」及び「図書館」に対するの満足度と重要度 ・「生涯学習の充実」→満足度7.4%（9位）、重要度37.0%（10位） ・「図書館」→満足度24.2%（1位）、重要度47.7%（7位）							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	施設の安全かつ適正な管理運営業務は、区が責任を持って実施していく必要がある。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	開館日数				単 位	日
		最終目標値	目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31	
		342	37	目 標	346	342	342	
				実 績	342			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	343	342	342	342	343	342
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	管理面でのトラブル等による閉館となることがないよう、図書館の開館日数を選定した。また、目標値（開館日数）としては、年間総数（365日）から条例に基づく休館日及び特別整理期間等を差し引き342日又は343日とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	来館者数				単 位	人
最終目標値		目標年度	基 準 年 (H28)	H29	H30	H31		
1,020,000		37	目 標	934,000	940,000	950,000	960,000	
			実 績	934,281				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標		970,000	980,000	990,000	1,000,000	1,010,000	1,020,000	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
「来館者数」を指標とすることにより、図書館が生涯学習の拠点として安全かつ適正に管理運営されている施設であることが示せる。また、目標値については、着実に来館数を増やしていく値とした。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	261,674							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 突発的な大規模改修等がなければ、ほぼ横ばいで推移していくものと思われる。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
施設の安全かつ適正な管理運営業務を区が責任を持って実施していくことで、区民ニーズに応えていく。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
適切な管理運営業務を実施していくことで、来館者の増加につなげている。		5	5	4	4
3 効率性・経済性		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
光熱水費の圧縮等の内部努力に努めていくという点での改善の余地はある。					
中間・最終年度の講評	緑・立花・八広3館の大規模改修工事により、利用環境の改善が図られた。				
今後の方向性	緑・立花・八広図書館は、指定管理者制度を導入して運営していくとともに、利用環境の維持向上に必要な施設改修を適切に実施していく。				

平成29年度 事務事業評価シート

施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	図書館事業費		2					
事業概要	窓口業務委託経費、非常勤職員報酬、図書館運営協議会の運営、すみだ文化講座の実施、図書館ボランティアによる企画提案型事業等の実施経費 (根拠法令) 図書館法、墨田区立図書館条例等		主管課・係 (担当)					
			ひきふね図書館 03-5655-2350					
施策への関連性	生涯学習の拠点として、有識者や教育関係者の専門的な知見の活用や区民の意見を取り入れながら、図書館サービスの向上を図るとともに、各種イベント等の実施により、区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	第24回墨田区住民意識調査における「生涯学習の充実」及び「図書館」に対するの満足度と重要度 ・「生涯学習の充実」→満足度7.4% (9位)、重要度37.0% (10位) ・「図書館」→満足度24.2% (1位)、重要度47.7% (7位) 代替可能性の状況 (区が実施する必要性等) 「墨田区立図書館運営基本方針」に基づき、地域の課題に対応したサービスの提供及び充実を図ることにより、「地域の活性化を支える情報拠点」「区民の役に立つ図書館」を目指していくため、中心館 (直営) として、ひきふね図書館の役割が求められている。							
有効性・適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	イベント実施数				単位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		300	37	目標	250	260	265	270
				実績	266			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	275	280	285	290	295	300
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	図書館においてさまざまなイベントを実施し参加してもらうことにより、今まで図書館を利用していなかった方にも図書館を知ってもらい、今後の利用に繋がるものとする。また、目標値については、着実にイベント数を増やしていく値とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	来館者数				単位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
1,020,000		37	目標	934,000	940,000	950,000	960,000	
			実績	934,281				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		970,000	980,000	990,000	1,000,000	1,010,000	1,020,000	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
「来館者数」を指標とすることにより、図書館があらゆる世代の利用者のニーズに応えるサービスを展開しており、生涯学習の拠点として機能しているとする。また、目標値については、着実に来館数を増やしていく値とした。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	262,919							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 イベント実施数の増加に伴い、予算面においても一定の増加が見込まれる。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
利用者ニーズに的確に応じていくイベントの実施等、区民の教育・教養・文化等の発展に寄与するために必要な事業である。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
区民との協働、区民ニーズに沿った事業展開を行っており、十分な成果がある。		5	5	5	5
3 効率性・経済性		現状維持の上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
区民との協働によるイベントの実施等により、広く地域社会への波及効果が期待できる。					
中間・最終年度の講評	図書館運営協議会において、区民や有識者等の意見を取り入れるとともに、利用者アンケートや各種イベント等の参加者の意見を事業運営に反映させている。				
今後の方向性	今後もイベント等を充実させ、来館者の増加を図っていく。				

平成29年度 事務事業評価シート

施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	資料購入費		3					
事業概要	図書その他必要な資料の収集、整備及び保存を行い、広く区民の利用に供することにより、その教養と文化の発展に資する。 (根拠法令) 図書館法、墨田区立図書館条例等		主管課・係 (担当)					
			ひきふね図書館 03-5655-2350					
施策への関連性	本事業を実施し、図書館資料を充実させ、広く区民の利用に供し、その教養・文化の発展に資することにより、区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	第24回墨田区住民意識調査における「生涯学習の充実」及び「図書館」に対するの満足度と重要度 ・「生涯学習の充実」→満足度7.4% (9位)、重要度37.0% (10位) ・「図書館」→満足度24.2% (1位)、重要度47.7% (7位)							
	代替可能性の状況 (区が実施する必要性等)							
	今年度より緑・立花・八広図書館は指定管理者による運営となったが、資料購入費はこれまで同様、ひきふね図書館の予算としている。これは、図書館資料の最終的な選定・購入については、民間事業者に委ねるのではなく、今後も区が責任と継続性を持って実施する必要がある。							
有効性・適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	個人貸出点数				単 位	点
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		1,680,000	37	目標 1,590,000	1,600,000	1,610,000	1,620,000	
				実績 1,591,987				
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標 実績	1,630,000	1,640,000	1,650,000	1,660,000	1,670,000	1,680,000
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	資料の購入と個人貸出点数は、密接な関係にあることから指標とした。なお、最終目標値は着実に個人貸出点数を増やしていく値とした。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	来館者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
1,020,000		37	目標 934,000	940,000	950,000	960,000		
			実績 934,281					
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標 実績		970,000	980,000	990,000	1,000,000	1,010,000	1,020,000	
指標の選定理由及び目標値の理由								
来館者数が増加していくということが、図書館があらゆる世代の利用者のニーズに応えるサービスを展開しており、生涯学習の拠点として機能していると考え。								
財政面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	59,161							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 都内他区の状況を毎年調査。人口規模等の観点から、適正化に向けて、ここ数年は微増中。				

1 必要性・妥当性								
区民ニーズの有無	ある							
代替可能性の有無	ない							
区が実施すべき強い理由があるか	ある							
判断理由								
区の責務において行う必要がある。								
2 有効性・適格性								
事業の目的が施策に合致しているか	合致している							
指標は目標値を満たしているか	満たしている							
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある							
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果			
図書資料は区民の生涯学習の重要な資料であり、幅広い世代に利用されている。		5	5	5	5			
3 効率性・経済性		現状維持の上継続						
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない							
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない							
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある							
判断理由								
地域の知のインフラとして機能するには、必要な資料を幅広く揃え続けていくことで、地域の教育、教養、文化等の発展に寄与する。								
中間・最終年度の講評	教養・文化の発展に資する図書館資料の選定を行うとともに、利用者の要望に応えられるように蔵書の充実を図っている。							
今後の方向性	区民のニーズに沿った蔵書に努め、来館者数の増加を図っていく。							

平成29年度 事務事業評価シート

施 策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	視聴覚資料					4		
事業概要	墨田区立図書館に必要な視聴覚資料の収集、保存、貸出等。 (根拠法令) 図書館法、墨田区立図書館条例等					主管課・係 (担当)		
						ひきふね図書館		
						03-5655-2350		
施策への 関 連 性	視聴覚資料の収集・保存を行い、広く区民の利用に供することにより、その教養と文化の発展に資する。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	第24回墨田区住民意識調査における「生涯学習の充実」及び「図書館」に対するの満足度と重要度 ・「生涯学習の充実」→満足度7.4% (9位)、重要度37.0% (10位) ・「図書館」→満足度24.2% (1位)、重要度47.7% (7位)							
	代替可能性の状況 (区が実施する必要性等)							
	「ウィークリーすみだ」を含めた行政機関制作資料などの視聴覚資料は、図書館で収集・保存・貸出する以外の方法はなく、区が実施しなくてはならない。また、民間業者では取り扱いが少ないが区に関連する視聴覚資料も収集・保存していく必要がある。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	視聴覚資料の貸出点数				単 位	点
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		150,000	37	目 標	150,000	150,000	150,000	150,000
				実 績	150,833			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
	実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	社会生活の変化を反映して、視聴覚資料の貸出点数はほぼ横ばいである。郷土資料など収集価値のある視聴覚資料を揃えていくことにより、貸出点数を維持することを目標とした。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	来館者数				単 位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
1,020,000		37	目 標	934,000	940,000	950,000	960,000	
			実 績	934,281				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標		970,000	980,000	990,000	1,000,000	1,010,000	1,020,000	
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
「来館者数」を指標とすることにより、図書館があらゆる世代の利用者のニーズに応えるサービスを展開しており、生涯学習の拠点として機能していると考え。また、目標値については、着実に来館数を増やしていく値とした。								
財 政 面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	3,555							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 購入予算を維持していく。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	不十分				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
視聴覚資料は他自治体との相互貸借を行っていないため、非売品を含めて区民のリクエストに応えるためには区立図書館が収集・保存する必要がある。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
視聴覚資料は区民の生涯学習の重要な資料であり、幅広い世代に利用されている。		5	5	5	5
3 効率性・経済性		現状維持の上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
地域の知のインフラとして機能するには、必要な資料を幅広く揃え続けていくことで、地域の教育、教養、文化等の発展に寄与する。					
中間・最終年度の講評	インターネット利用など視聴覚資料の視聴方法が多様化する中で、視聴覚資料の貸出点数はほぼ横ばいであるが、区に関する視聴覚資料については積極的に収集・保存している。				
今後の方向性	郷土資料など収集価値のある視聴覚資料については、重点的に収集・保存していく。				

平成29年度 事務事業評価シート

施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	障害者サービス事業					5		
事業概要	視覚障害者・高齢者等図書館や資料を利用する際に困難のある区民に対し、必要なサービスを提供するとともに、ボランティアの育成を図る。 (根拠法令) 障害者差別解消法、墨田区立図書館条例等					主管課・係 (担当)		
						ひきふね図書館		
							03-5655-2350	
施策への関連性	障害者に応じたサービスを提供することで、希望する図書を読むことができ、生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	第24回墨田区住民意識調査における「生涯学習の充実」及び「図書館」に対するの満足度と重要度 ・「生涯学習の充実」→満足度7.4% (9位)、重要度37.0% (10位) ・「図書館」→満足度24.2% (1位)、重要度47.7% (7位)							
	代替可能性の状況 (区が実施する必要性等)							
図書館条例に基づき、身体障害者等への利用援助が規定されている。公共施設は、障害者に対し合理的配慮をすることが義務付けられている。公平・継続的にサービスを提供するためには、区が障害者サービス利用登録等を実施する必要がある。								
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	障害者個人貸出点数				単 位	点
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		13,120	37	目標	8,800	9,280	9,760	10,240
				実績	8,839			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目標	10,720	11,200	11,680	12,160	12,640	13,120
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	貸出点数は事業の円滑な運営の指標の一つとなることから選定した。また、目標値については、貸出点数を着実に増やしていく値とした。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	障害者サービス登録者数				単 位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
270		37	目標	180	190	200	210	
			実績	182				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標		220	230	240	250	260	270	
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
障害者サービス登録者数に応じ、事業が円滑に運営されていることを確認できる。目標値については、着実に登録者数を増やしていく値とした。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,316							
	H35	H36	H37	〔予算傾向〕 事業の充実に伴い、予算面においても一定の増加が見込まれる。				

1 必要性・妥当性								
区民ニーズの有無	ある							
代替可能性の有無	ない							
区が実施すべき強い理由があるか	ある							
判断理由								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化社会の到来や2010年の著作権法の改正により利用対象が大幅に広がり、利用者が増加している。 ・ 2016年に障害者差別解消法が施行され、合理的配慮が義務化されている。 ・ 図書館利用に障害のある方に、一般利用者と同様に資料提供していく必要がある。 								
2 有効性・適格性								
事業の目的が施策に合致しているか	合致している							
指標は目標値を満たしているか	満たしている							
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある							
判断理由		効率性 経済性	有効性 適格性					
利用者の求めに応じた資料を提供することで、教養と文化の発展に寄与している。		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果			
		5	5	4	4			
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>						
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない							
実工程やコストに改善の余地がないか	ある							
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある							
判断理由								
音訳等の図書作成期間や宅配の方法については、改善の余地がある。								
中間・最終年度の講評	デジター図書の購入や音訳・点字サービスなど、障害に応じた図書館サービスを提供している。							
今後の方向性	障害者サービスをさらに充実させるために、事業のPR及びボランティアの育成等を進めていくことにより、より多くの障害者が図書館を利用できるようにする。							

平成29年度 事務事業評価シート

施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	児童サービス事業		6					
事業概要	児童の図書館利用と読書活動を推進する。また、その推進の担い手として、おはなし会や出張おはなし会のボランティア育成のための講座等を実施する。（根拠法令）図書館法、墨田区立図書館条例、墨田区子ども読書活動推進計画		主管課・係（担当）					
			ひきふね図書館					
			03-5655-2350					
施策への関連性	児童が自主的・習慣的に読書に親しむ機会と環境を整備し、豊かな心と志を持って生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる。							
必要性・妥当性	区民のニーズ 第24回墨田区住民意識調査における「生涯学習の充実」及び「図書館」に対するの満足度と重要度 ・「生涯学習の充実」→満足度7.4%（9位）、重要度37.0%（10位） ・「図書館」→満足度24.2%（1位）、重要度47.7%（7位）							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等） 「墨田区子ども読書活動推進計画（第3次）」において家庭・地域・学校など関係機関との更なる連携・協力を目指していることから、効率的な運営や連携による相乗効果を実現するため区が実施する必要性がある。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	事業数				単 位	回
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		286	37	目 標	250	254	258	262
				実 績	252			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
		目 標	266	270	274	278	282	286
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	図書館でおはなし会・おたのしみ会・出張おはなし会等を数多く実施することで、来館者の増加が見込まれるため。また、目標値としては、図書館4館で毎年、行事数を増やしていく値とした。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	事業参加者数				単 位	人
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
8,180		37	目 標	7,100	7,220	7,340	7,460	
			実 績	7,145				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目 標		7,580	7,700	7,820	7,940	8,060	8,180	
	実 績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
児童を対象にした行事の参加者数を指標とすることで、児童サービスの充実度が把握できる。また、目標値としては、行事数の増加に伴う値とした。								
財政面 (決算額) (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	487							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 行事数の増加に伴い、予算面においても一定の増加が見込まれる。				

1 必要性・妥当性								
区民ニーズの有無	ある							
代替可能性の有無	ない							
区が実施すべき強い理由があるか	ある							
判断理由								
子どもにとっての読書は、言葉を学び心豊かにし、生きる力を身に付けていくうえで、欠くことのできないものであり、必要性は高い。								
2 有効性・適格性								
事業の目的が施策に合致しているか	合致している							
指標は目標値を満たしているか	満たしている							
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある							
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果			
積極的に児童サービスを実施することにより、児童が本とふれ合う機会を増やすことで、読書習慣を身に付ける。		5	5	5	5			
3 効率性・経済性		現状維持の上継続						
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない							
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない							
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある							
判断理由								
地域住民がボランティアとして児童サービス事業に参加することにより、地域社会への波及効果がある。								
中間・最終年度の講評	子どもの読書活動推進のために、おはなし会などの事業を積極的に進めている。							
今後の方向性	積極的に子ども読書活動の推進を図るため、小中学校での出張おはなし会の開催や、おはなし会の担い手となる読み聞かせボランティアの育成を推進していく。							

平成29年度 事務事業評価シート

施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	図書館と学校図書館の連携事業					7		
事業概要	区内小中学校での児童・生徒の読書活動の推進を図るため、学校図書館システムの導入、学校図書館運営についてのアドバイス及び調べ学習に関する支援等を行う。 (根拠法令) 学校図書館法、墨田区立図書館条例、子ども読書活動推進計画等					主管課・係 (担当)		
						ひきふね図書館		
						03-5655-2350		
施策への関連性	学校図書館の環境整備や支援を通して読書活動の推進を図ることにより、児童・生徒が情報リテラシー能力を身に付け、さまざまな学習活動に主体的に取り組んでいける環境をつくる。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	第24回墨田区住民意識調査における「生涯学習の充実」及び「図書館」に対するの満足度と重要度 ・「生涯学習の充実」→満足度7.4% (9位)、重要度37.0% (10位) ・「図書館」→満足度24.2% (1位)、重要度47.7% (7位)							
代替可能性の状況 (区が実施する必要性等)								
子ども読書活動の推進に関する施策は、法律で各自自治体での責務が規定されている。また、学校図書館システムは、図書館システムの一部を使用することで、効率的な運用ができるため。								
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指標	学校図書館連携システム稼働日数				単位	日
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		365	37	目標 実績	365 365	365	365	
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	365	365	365	365	365	
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	システムを評価する基準として最も基本的な指標となる、システムの稼働日数を選定した。また、目標値としては、システムが停止して利用できない日がないことを目標に365日とした。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	児童・生徒一人あたりの学校図書館年間平均貸出冊数 (小学校)				単位	冊
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
40		31	目標 実績	34 35.6	36	38	40	
H32		H33	H34	H35	H36	H37		
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
学校図書館における読書活動を量的に示す指標として選定した。児童・生徒数及び校数の多い小学校を対象とした。目標値については、墨田区子ども読書活動推進計画 (第三次) における最終年度 (平成31年度) の目標値を設定した。								
財政面 (決算額) (単位: 千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	16,817							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕 29年度予算から予算を組み替え、機器の管理経費のみとなるため今後大幅な変動は起こらない予定				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
次期学習指導要領では調べ学習が重視されるなど学校図書館の役割が期待されており、図書館との連携によりその機能の充実を図ることが求められている。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
両指標ともに目標値を達成しており、コストに対しても十分な成果が出ている。		5	5	4	4
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
図書館以外の実施主体はなく、工程やコストに関しても、機器の維持管理が中心のため改善の余地は少ない。					
中間・最終年度の講評	学校図書館への学校司書要員の派遣と、中学校において図書館の蔵書を検索・予約が可能であることから、読書を通じた学習活動を主体的に取り組むことができる環境を整えている。				
今後の方向性	学校図書館システムについては、今後の更新に合わせて使用するソフトの見直しなど、コストの削減に努めるとともに学校と連携し、学校図書館を利用した読書活動を支援していく。				

平成29年度 事務事業評価シート

施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	子ども読書活動推進事業費					8		
事業概要	子どもが読書に親しむ機会と環境を積極的に整備する。 (根拠法令) 図書館法、墨田区立図書館条例、墨田区子ども読書活動推進計画					主管課・係(担当)		
						ひきふね図書館		
						03-5655-2350		
施策への関連性	子どもの読書活動を推進することで、生涯にわたり学ぶことができる力を育むことを目指す。また、子どもの読書活動の推進は、家庭・地域・学校など関係機関との連携・協力のもと総合的・体系的に実現されるものであり、地域全体の生涯学習環境の醸成に資する。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	第24回墨田区住民意識調査における「生涯学習の充実」及び「図書館」に対するの満足度と重要度 ・「生涯学習の充実」→満足度7.4% (9位)、重要度37.0% (10位) ・「図書館」→満足度24.2% (1位)、重要度47.7% (7位)							
	代替可能性の状況(区が実施する必要性等)							
子ども読書活動の推進に関する施策は、法律で各自治体での責務が規定されている。「墨田区子ども読書活動推進計画(第3次)」において家庭・地域・学校など関係機関との更なる連携・協力を目指していることから、効率的な運営や連携による相乗効果を実現するため区が実施する必要性がある。								
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指標	区立図書館・図書室の延べ貸出者数(18歳以下)				単位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		84,056	31	目標 実績	76,000 76,417	78,685	81,370	84,056
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標						
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	「墨田区子ども読書活動推進計画(第3次)」の数値目標のうち、18歳以下を網羅できる項目を指標として選定した。なお、基準年の実績については、平成25年度実績である。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	不読率				単位	%
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
15		31	目標 実績	18 18	17	16	15	
H32		H33	H34	H35	H36	H37		
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
「墨田区子ども読書活動推進計画(第3次)」の数値目標のうち、小5の不読率を指標として選定した。なお、基準年の実績については、平成25年度の実績とした。								
財政面 〔決算額〕 (単位:千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	2,735							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕29年度予算から、各事務費に分散していた当該経費を統一したことや、当事業は強化していく必要があることから、今後、増加傾向にあると考える。				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
「必要性・妥当性」欄の記載から、区民ニーズ及び区が実施すべき強い理由があると考えられる。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
事業の目的は施策に合致している。		5	5	5	5
3 効率性・経済性		現状維持の上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ない				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
子どもの読書活動を推進することにより、学校図書館や家庭、地域などへの波及効果が見込まれる。					
中間・最終年度の講評	調べる学習への支援等を通して、学校、家庭、図書館の連携・協力関係は進んでいる。また、POPコンテスト等の実施により、子ども読書活動の推進に努めている。				
今後の方向性	調べる学習への支援を充実させるとともに、子どもが読書に親しむ環境の整備をさらに進めていく。				

平成29年度 事務事業評価シート

施 策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	ブックスタート事業		9					
事業概要	乳児（3・4か月健診児）とその保護者を対象に、乳児への読み聞かせを体験してもらい、初めての読み聞かせに適した絵本を配布し、読み聞かせの普及啓発と図書館利用の推進を図る。 （根拠法令）墨田区立図書館条例、墨田区子ども読書活動推進計画		主管課・係（担当）					
			ひきふね図書館					
			03-5655-2350					
施策への 関連性	本事業から、おはなし会などの図書館行事への参加を促し、読書習慣の定着に繋げる。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	第24回墨田区住民意識調査における「生涯学習の充実」及び「図書館」に対するの満足度と重要度 ・「生涯学習の充実」→満足度7.4%（9位）、重要度37.0%（10位） ・「図書館」→満足度24.2%（1位）、重要度47.7%（7位）							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	保健センターの乳児健康診査事業の中で実施していることから、区が実施する必要がある。							
有効性・ 適格性	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	絵本の配布率			単 位	%	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		100	37	目標 実績	95 95	96	97	98
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	100	100	100	100	100	100
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	3・4か月健診の対象者全員を対象に、読み聞かせの普及活動と図書館利用の促進を図るため、読み聞かせの体験と絵本を配布する必要があることから、指標を設定した。							
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	0歳から6歳までの貸出者数			単 位	人	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		12,204	31	目標 実績	11,700 11,743	11,868	12,036	12,204
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
目標								
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
「墨田区子ども読書活動推進計画（第3次）」の数値目標のうち、0歳から6歳の貸出者数を指標として選定した。								
SITE	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	1,406							
	H35	H36	H37	【予算の傾向】 ブックスタート事業として事業予算を計上していたが、29年度以降は、子ども読書活動推進計画事業費として計上する				

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
保健センターの乳児健康診査事業の中で実施していることから、区が実施すべき事業である。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
子どもの読書習慣を定着させるために有効である。		5	5	4	4
3 効率性・経済性		改善・見直しの上継続			
目的・対象が類似する事務事業はないか	ない				
実施工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
保健センター内での実施場所については、改善の余地がある。					
中間・最終年度の講評	保健センターの乳児健康診査対象者のほとんどが参加し、図書館利用につながっていることから、一定の成果を上げている。				
今後の方向性	ブックスタートについて丁寧に説明ができ、親子がゆっくりと絵本に触れることができる環境づくりに努めていく。				

平成29年度 事務事業評価シート

施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	図書館オンライン事業					10		
事業概要	図書館利用者及び職員等に対し、利用サービスや業務をシステム化・オンライン化することで、サービスの質的向上や、業務の効率化を図る。 (根拠法令)図書館法、区立図書館条例 墨田区行政情報化推進計画等					主管課・係 (担当)		
						ひきふね図書館		
		03-5655-2350						
施策への関連性	図書館の効率的な運営、利用者の利便性を高める役割を担うことで、区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる。							
必要性・妥当性	区民のニーズ							
	第24回墨田区住民意識調査における「生涯学習の充実」及び「図書館」に対するの満足度と重要度 ・「生涯学習の充実」→満足度7.4% (9位)、重要度37.0% (10位) ・「図書館」→満足度24.2% (1位)、重要度47.7% (7位)							
	代替可能性の状況 (区が実施する必要性等)							
	図書館システムは、経費面や契約形態から長期的な視野に立つ管理・運用が必要であり、必要不可欠なシステムとして代替の可能性はない。							
有効性・適格性	手段に対する指標 (活動指標)	指 標	図書館オンライン稼働日数				単 位	日
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		365	37	目標	365	365	365	
				実績	365			
			H32	H33	H34	H35	H36	H37
			目標	365	365	365	365	365
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	システムを評価する基準として最も基本的な指標となる、システムの稼働日数を選定した。また、目標値としては、システムが停止して利用できない日がないことを目標に365日とした。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指 標	インターネット等利用による予約受付件数				単 位	件
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
465,000		37	目標	420,000	425,000	430,000	435,000	
			実績	426,957				
		H32	H33	H34	H35	H36	H37	
		目標	440,000	445,000	450,000	455,000	460,000	465,000
	実績							
指標の選定理由及び目標値の理由								
利用者が本を借りる際に、電話等による予約でなく図書館webサイトでの予約が可能であることは、区民の生涯学習の場の効率的な提供に寄与していることから、この指標を選定した。目標値は実績値等を参考に設定した。								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	72,183							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				
					予算の大半は、当システムリース料及び保守委託料であるため、今後大幅な変動はない。			

1 必要性・妥当性					
区民ニーズの有無	ある				
代替可能性の有無	ない				
区が実施すべき強い理由があるか	ある				
判断理由					
必要性・妥当性の観点から、代替可能性はないと思われる。					
2 有効性・適格性					
事業の目的が施策に合致しているか	合致している				
指標は目標値を満たしているか	満たしている				
かけたコストに対し十分な成果があるか	ある				
判断理由		必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果
事業目的は施策と合致しており、目標値は満たしている。費用対効果については、コストに対し十分な成果がある。		5	5	4	4
3 効率性・経済性		<p style="text-align: center;">改善・見直しの上継続</p>			
目的・対象が類似する事務事業はないか	類似事業はあるが統合等は望ましくない				
実工程やコストに改善の余地がないか	ある				
地域社会やその他住民への波及効果があるか	ある				
判断理由					
図書館webサイトについては、区役所HPとの類似性が考えられるが、過去に区役所HPから図書館webサイトとして独立したことにより利用件数が大幅に増加したことから統合は望ましくない。コスト面については今後のシステムの更新の際に検証していく。					
中間・最終年度の講評	図書館サービスや業務のシステム化により、業務の効率化やサービスの質的向上に努めている。				
今後の方向性	安定的なシステム運用を目指していくとともに、今後の更新に合わせて、使用するソフトの見直しなどコスト削減に努め、図書館利用の利便性を高める取組を進めていく。				

平成29年度 事務事業評価シート

施策	521	区民が生涯にわたり学ぶことができる環境をつくる	部内優先順位					
事務事業	IT講習サポート事業					11		
事業概要	平成13年度に国庫補助事業を活用し実施したIT講習会の終了を受け、平成14年度から区内のNPO法人等と協働する事業を展開し、現在に至る。区が初心者向けパソコン教室を主催するとともに、NPO等が開催するパソコン教室等を共催することにより区民のIT技術の普及と向上を図っている。					主管課・係（担当）		
						地域教育支援課 地域教育支援担当		
						03-5608-1433		
施策への 関連性	区が主催する「初心者のためのパソコン教室」や社会教育関係団体及びNPO等の団体が主催するIT講習会を通じて、区民のIT技術の普及・向上を図ることにより、生涯学習の環境づくりに資する。							
必要性・ 妥当性	区民のニーズ							
	代替可能性の状況（区が実施する必要性等）							
	各家庭へのパソコンの普及が目覚ましい状況で、民間事業者等でも同様の講座が多く開催されていることから、受講者数は減少しており、民間事業者等による講座で代替可能である。							
有効性・ 適格性	手段に 対する指標 (活動指標)	指 標	共催団体数				単 位	団 体
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		目 標		2				
		実 績		2				
		目 標	H32	H33	H34	H35	H36	H37
		実 績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指 標	講習会受講者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31	
		目 標		2,000				
		実 績		1,136				
		目 標	H32	H33	H34	H35	H36	H37
実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
財政面 〔決算額〕 (単位：千円)	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
	136							
	H35	H36	H37	〔予算の傾向〕				

1 必要性・妥当性		<p>必要性 妥当性</p> <p>5 4 3 2 1 0</p> <p>効率的 経済性</p> <p>有効性 適格性</p>											
区民ニーズの有無	少ない又は減少傾向												
代替可能性の有無	ある												
区が実施すべき強い理由があるか	ない												
判断理由													
高齢者や主婦がパソコンに触れる契機として一定のニーズはあるが、現在では多くの民間事業者によりパソコン教室等が開催され、区の直営による事業実施の必要性は低下している。													
2 有効性・適格性		<table border="1"> <thead> <tr> <th>必要性 妥当性</th> <th>有効性 適格性</th> <th>効率的 経済性</th> <th>評価結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>				必要性 妥当性	有効性 適格性	効率的 経済性	評価結果	1	3	2	1
必要性 妥当性	有効性 適格性					効率的 経済性	評価結果						
1	3					2	1						
事業の目的が施策に合致しているか	合致している												
指標は目標値を満たしているか	活動指標のみ満たしている												
かけたコストに対し十分な成果があるか	ない												
判断理由													
平成25年度には講座受講者が1,843人であったが、平成28年度は1,136人まで減少している。													
3 効率性・経済性		<p>必要性等が失われたため廃止</p>											
目的・対象が類似する事務事業はないか	未検討												
実工程やコストに改善の余地がないか	ない												
地域社会やその他住民への波及効果があるか	未測定												
判断理由													
区の直営事業としてのパソコン教室の開催及びNPO法人・社会教育関係団体との共催事業の二本立てにより事業を実施していたが、事業開始から14年が経過し、当初の目的が達成されたことから28年度末で事業を廃止とした。													
中間・最終年度の講評	区が直営で開催していた「初心者のためのパソコン教室」については、初期の目的を達成したことから廃止した。なお、NPO法人・社会教育関係団体を実施しているパソコン教室に対しては、今後も後援等を行い、支援を継続する。												
今後の方向性	事業開始から14年が経過し、IT環境は急速な発展を遂げ民間事業者による講座で代替可能である。また、今後も引き続き社会教育関係団体やNPO法人が主催する講習会等を後援等することで、区民のIT技術の普及や向上を支援する。												